

《研究課題名》

黄体期採卵における良好胚獲得に寄与する因子の検討

《研究対象者》

2019年10月1日から2023年12月31日の間に当科外来通院中で体外受精を施行している患者さんを対象とします。その対象患者さんの過去の体外受精のデータも含めた2015年1月1日から2023年12月31日までのデータを収集します。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法是以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究課題名》

黄体期採卵における良好胚獲得に寄与する因子の検討

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2024年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 女性診療科 竹林明枝

（２）研究の意義、目的について

《意義》

近年、体外受精における採卵は胞期採卵が第一選択で行われています。しかし、卵胞期採卵では良好な胚を獲得できない場合などは、黄体期採卵を施行することがあります。その結果、卵胞期採卵と比較して獲得できる胚の数が増えたり、胚の質（グレード）が改善することがあります。そこで、よりよい胚を多く得るために、どのような場合に卵胞期採卵から黄体期採卵に切りかえるとよいかを検討する必要があります。

《目的》

卵胞期採卵で良好な結果が得られない方が黄体期採卵へ切りかえる指標を検討することが目的です。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

滋賀医科大学附属病院女性診療科にて体外受精を施行された患者さんを対象とします。データは当院に所属する2015年～2023年までの診療録を使用し探索的研究を行う後ろ向きコホート研究です。

《利用する情報の項目》

診療録に記載されている情報を用います。収集する情報は、下記の通りです。

年齢、体重、不妊原因、AMH、体外受精における刺激方法、薬剤使用量、採卵数、回収卵数、受精卵数、

胚分割率、凍結胚数、凍結胚グレード、精液所見、受精方法、妊娠経過、分娩方法、児出生体重、児アプガースコア

《情報の管理について責任を有する者》

所属 女性診療科 氏名 竹林明枝

(4) 個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

(5) 研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(7) 利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の情報を本研究に利用することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2022年10月1日までに下記(8)にご連絡ください。

(8) 本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 所属 女性診療科 氏名 竹林明枝

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2267

メールアドレス：hgyne@belle.shiga-med.ac.jp